

コンテナ苗導入による造林コスト削減の推進

渡島森林管理署

目標

道南地域における種苗業者の現状等を的確に把握し、コンテナ苗の特性を皆で理解・共有したうえで、国有林として道南地域における造林コストの削減に向け、どういった施策が必要かを的確に把握していく。

- 苗木の生産
根切りが不要なことや、育苗期間の短縮 等
- 植付
活着が良く、植付け時期を選ばないことや、根踏みが簡単、根系の発達が良く生長が良い 等



平成27年度における主な取り組み結果

1 育苗業者への聞き取り

北斗市の育苗業者を訪問し、コンテナ苗の生産状況を聞き取りした。「生産は始めたばかりで、今後の需供量がはっきりしないと生産体制を整えられない」等の意見がありました。

2 継続した活着率・生長量調査を実施(11月12日)

国有林に植栽したコンテナ苗について、平成25年度より継続して活着率・生長量の調査を実施しており、活着率は高く生育は良好だが普通苗と比べ大きな差はないことがわかりました。今後、活着率の良さ等を活かしたコンテナ苗の活用方法を検討していきます。



3 現地検討会の開催

国有林及び民有林のコンテナ苗植栽箇所において、育苗業者を交えた現地検討会を開催しています。

育苗業者は、コンテナ苗の植付作業を初めて見学し、梱包の際にビニール袋やラップを使用しているが作業の際に回収する手間が大変ではないかを作業者に確認し、それほど気にならないことがわかる等、どのような林地にどのように植栽されているかを確認しています。

植栽する際に根鉢の崩れにくい優良なコンテナ苗を生産することが重要で、そのために出荷1週間前に十分水を与えるなど水や追肥の管理をしっかりと研究していくこととなりました。

その中で、①コンテナ苗の規格の統一による生産コスト削減と量産化 ②買い物かごの利用など簡易な小運搬の方法 ③輸送車両の荷台の改良等についての意見やアイデアが多数寄せられ、コンテナ苗の低コストな活用方法について地域で考えていくきっかけとなりました。



檜山署3,199林班での現地検討会(10月23日)



森町本茅郡町内民有林での現地検討会(11月6日)



今年度の成果

コンテナ苗の優位性についての理解は得られた。

一方で、梱包方法、輸送方法の工夫などの解決すべき課題が地域で共有でき、根鉢の丈夫なコンテナ苗の生産方法や、数種類ある植付機具の使用・選択方法、更なる低コスト化に向けた作業形態の改善等の支援策が見えてきました。

今後に向けて

民国連携による森林施業の推進を図るため、森林整備推進協定を締結するとともに森林整備の低コスト化に向け施工性に優れたコンテナ苗の普及、定着に努めていきます。また、平成28年度、伐採から地拵、コンテナ苗の運搬植栽を同時に行う一貫作業システムでの工期調査を行い優位性についての実証を行っていきます。

一貫作業システムの特徴

- 1 機械の現場移動がない
- 2 伐採・搬出中に地拵え作業実施
- 3 伐採後、即植え付け作業 等

